vol.31 October 2017

Page-1

連携美術館プログラム情報

入間市博物館 **ALIT**

キッズ・アート・ギャラリー& SMF「型を作って★固めよう!」

日時:2017年7月30日(日)13:00~15:00

講師:矢花俊樹さん(金工家、元・県立近代美術館エデュケーター)

埼玉県内の5つのミュージアムと連携する「サイタマミューズフォーラム(SMF)」。

今回は入間市博物館ALIT (アリット)が舞台です。7月28日(金)から同館で開催中のキッズ・アート・ギャラリーの体 験ワークショップ企画「型を作って★固めよう!」。小学生ら親子12組24人が、粘土で作った型に石膏や錫を流し込む 鋳金(ちゅうきん)を体験しました。



▶まずは2階の展示室へ。

アケボノゾウの足跡の化石を見学する参加者たち。「何をしてい たところだと思う?」矢花さんの問いかけに想像をふくらませるこど もたち。「じゃあ、足跡を作りに行こう!」



▶なんの足跡だろう?

ヘラや指で足跡をつけた粘土に土手を作り、石 膏を流し込んでいきます。説明する矢花さんの 手元を見つめる眼差しは真剣そのもの。思い思 いの足跡ができあがりました。



▶ 凸面と凹面、ふたつの関係性は?

石膏が固まる間、再び2階へ。こども科学室に展示 している凸面と凹面の顔の彫刻を見比べます。 「凹んだところに水を入れて凍らせるとどうなる?」



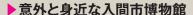
▶重装備でいざ

粘土を窪ませて親子でお互いの顔 を作り、約232度で融ける錫を流し 込みます。ゴーグルや手袋の装備に 少し緊張が走ります。冷めたら型から 外し、はみ出た部分を丁寧に切り 取って、銀色に輝く箸置きの完成!



▶考えるから面白い

矢花さんの講座は、単純に作業工 程を説明するのではなく、同館の 展示を絡めながら「見て」「考えて」 「聞いて」「作る」。短時間ながらも 鋳金の仕組みを楽しく学ぶことが できました。



池袋から入間市駅まで急行電車で約40分。武蔵野線新秋津駅から秋津駅の乗り換えの道中も飲食店が立ち 並び、なかなか面白いですよ。車なら、近くにアウトレットや大型スーパーもあるので、お出かけに是非。(K.M)

執筆: (K.M)ミナミ カナコ

編集:SMF広報委員会 発行:Saitama Muse Forum

〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤9-30-1 埼玉県立近代美術館内

問い合わせ:SMF.info@artplatform.jp

http://www.artplatform.jp



SIFI Press

vol.31 October 2017
Page-2

連携美術館プログラム情報

入間市博物館 ALIT

押忍!手芸部/SMF「笑いぶく郎」をつくろう

日時:2017年8月5日(土)13:00~15:00

講師:石澤彰一さん(アーティスト、「押忍!手芸部」部長)

予約段階から反響の大きかった「押忍!手芸部」、

「笑い袋」を使って「笑いぶく郎」を作るワークショップにお邪魔してきました。

部長が「笑い袋」を手に取り、簡単な説明。 笑い袋をそれぞれ笑わせる子供たち。 「あっはは」と笑い袋の笑い声があたり一 帯から聞こえてきて、にぎやかな雰囲気 の中、作業が始まりました。部長のジャ ケットはすべてお手製なんだとか!





▲入間市博物館 ALIT

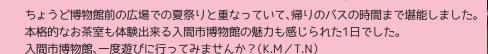
ボタンを買えない海外の子供たちのために、シャツに使うボタンを集めたところ、シャツ用に使えない普通のボタンが集まってしまい「部長何かに役立ててください」と託されたボタンたち。今回の「笑いぶく郎」に使えないかな?という発想から、部長がたくさんのボタンを持参してきました。

今おト糸れれ

今回参加された方に感想を聞かせていただきました。

お母様と娘様で参加された様子を見守っていたお父様からのコメント:子供が思ったより夢中で「笑いぶく郎」を作っていた。子供が針と糸を使っても、大人が見ていれば危なくないし、家だと材料がないけれどワークショップだと材料も豊富なのでみんなで楽しく作品を作れました。

「これで今日から、みんなも「押忍!手芸部」の部員だよ!」 「自分の作品が一番と思っていいんだよ」部長の話を聞きながらみんなが作った「笑いぶく郎」を見てみると、ひとりひとり違う個性が溢れていました。



執筆:(K.M)丸藤晃代/(T.N)仁科貴史

編集:SMF広報委員会 発行:Saitama Muse Forum 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤9-30-1 埼玉県立近代美術館内

問い合わせ:SMF.info@artplatform.jp

SMFは身近な場所でアートを享受し支援し 再創造するプラットフォームをめざしています。

http://www.artplatform.jp

ENCELLINE.



Page-3

連携美術館プログラム情報

埼玉県立 近代美術館

埼玉県立近代美術館/MOMASのとびら/ SMF「光るたまごをつくろう」

日時:2017年9月23日(土)13:30~15:30/講師:みゃうかさん(SMFアーティスト)

MOMASのとびらを開くと 暗闇の部屋に光るたまごを発見!!

埼玉県立近代美術館で土曜午後に開催されている、子どもから大人まで楽しめるアート体感ワークショップ「MOMAS(モマス)のとびら」に行ってきました。今回は、SMFアーティストみゃうかさんによる「光るたまごをつくろう」。

受付を済ませて、3F工作室の扉を開けると、部屋の中は真っ暗。

集まった小中学生30名は、暗闇に光る みゃうかさんの作品に惹き寄せられて、「か わいい〜」「キレイだね〜」「なんで光るの!!」 「模様が浮き出てるう」と興味深々。

子どもたちからどんなたまごの作品が産 まれるのかしら。



①宇宙空間に浮かぶ惑星のような作品。風船や粘土で型を作って仕上げたそう。



④どんなたまごにするか、頭のなかのアイデアを紙に描く。デザインが決まったら、花紙を切っていく。



⑦スタッフが名付けた「たまご製造工場」。産まれたばかりの たまごを次々に乾かしていく。

アイデアを形に! 未知の感触に 笑顔がいっぱい。

頭に浮かんだアイデアを紙に描いたら、細かくちぎった和紙と、色とりどりの花紙を使って、風船に貼り付けていく。

水で溶いたのりと風船の感触に、「うひゃー、手がベタベタ」「気持ち悪い〜」「プニュプニュしてて楽しい〜」。自然と子どもたちの顔は、嬉々とした表情に。見ているだけでも楽しい。

「早く乾かないかなあ」楽しみに 待つ子どもたち。

次々と産み出された30個のたまごを、子 どもたちとスタッフがドライヤーで、丁寧に 乾かしていく。



②花、魚、怪獣などをモチーフにした「光るたまご」。中に取り付けたLEDライトを点灯させると、模様が浮き出るしくみ。



⑤制作に没頭する子どもたち。わからなかったり難しい箇所 は、みゃうかさんやスタッフがサポートに。



⑧完全に乾いたら、中の風船に穴を開けて取り出す。風船がし ぼんでいく様子も不思議なので、ぜひ体感してほしいとのこと。

完全に固まって、たまごの殻のようにカチカチになったら、中の風船に穴をあけて取り出し、LEDライトを取り付けて完成!!

乾くまで、2日ほど置いておく必要がある とのことで、持ち帰り用のカゴを作り今回は ここまで。

「完成が楽しみ〜」「花紙を切るのが難しかった〜」。お迎えに来たご家族や友だち同士で感想を伝えながら、嬉しそうに帰っていく子どもたちが印象的でした。

「MOMASのとびら」では、今回の「みる+つくる」のほか、「親子クルーズ」「わくわく鑑賞ツアー」などのプログラムを実施。詳しくはホームページをご覧下さい。

http://www.pref.spec.ed.jp/momas/

(T.N)



③暗闇の中、「光るたまごをつくろう」の説明がはじまる。みゃうかさんは、手づくりを通して、使用する素材の感触や変化に驚いてほしいという。



⑥風船のまわりの1層目にちぎった和紙を少し重なるように 貼る。2層目はデザインに合わせて切った花紙を。3~6層目 は和紙を貼る。水で溶いたのりの感覚にビックリ!!



⑨たまごの側面にLEDライトのリングを通す穴をあけて、取り付けたら完成。どんな「光るたまご」ができたかな!?

執筆:(T.N)仁科貴史

編集:SMF広報委員会 発行:Saitama Muse Forum

〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤9-30-1 埼玉県立近代美術館内

問い合わせ:SMF.info@artplatform.jp

SMFは身近な場所でアートを享受し支援し 再創造するプラットフォームをめざしています。

